

2009. 7. 14

CONTENTS



- 2 7/9 に沖縄県と交渉しました
- 3 国会請願署名 3 万 360 筆を提出
- 4 沖縄防衛局交渉／現地激励訪問
- 5 [報告]2009 ジュゴンの里ツアー
- 6 地元の方の取組み／米小学生の取組み
- 7 沖縄生物多様性市民ネットワーク結成

麻生政権は自公の期待外れに終わった。しかし、当初から自公政治の限界は、その無能ぶりを露呈しており、期待できるわけはなかった。結局、自公政治家たちは自ら招いた存亡の危機に対処する能力を失い、ただただ集団死の恐怖に怯え、狂乱し、右往左往することになったのである。

こうなることは誰でも予測できたはずだ。しかし、誰もが欲望に負け、臆病を克服できずにきたのである。まるで米国との戦争を仕掛け、原爆を落とされるまで戦争をやめる勇気を持ちえなかった64年前の日本と、重なって見える。

ジュゴンに学ぶ非武のこころ

SDCC 共同代表 海勢頭 豊

我々はこんな時だからこそ軍国主義者の台頭を許してはならない。先の大戦で犯した過ちを、二度と繰り返してはならないのである。日本はその過ちの反省に立ち、非戦非武の絶対平和の誓いを憲法にしたのである。特に9条は政治家たちが絶対に守らなければならないものだ。そして、その絶対性を守るよう命じたもの、それが憲法であると言っていい。

にもかかわらず、臆病な日本人は自民党政治と日米安保を容認し、再び武力信仰に妥協してきた。その憲法違反の流れが竜宮神ジュゴンの存在を秘匿し、9条を変える準備をもくろみながら、辺野古新基地建設を同時進行的に企むことを許してしまったのである。

しかし、我々SDCCはその横暴を許すわけにはいかない。生物多様性条約締結国会議とジュゴン保護年を来年に控え、平和と生命を守る運動を、これまで以上に強化しようと思う。衆議院解散総選挙は、もう目の前に迫ってきた。気を許すことなく、ジュゴンを守り、新基地建設反対の意思を貫く候補者を一人でも多く当選させること。まずそれが直近の課題である。熱中症に気をつけて。メンバーの活躍に大いに期待するところである。

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] info@sdcc.jp



7/4・5 ジュゴンの里ツアー(5面参照)



7/2 沖縄県議会の議員を激励訪問
(4面参照) 県議会は昨夏辺野古新
基地反対を決議している



「県審査会でしっかり確認します」

7月9日に沖縄県と交渉しました

7月9日沖縄県交渉を行いました。沖縄防衛局交渉（7月3日 参考4面）で課長補佐が「辺野古沖は平成16年度まで生息地であった」との発言を紹介しながら、NO16-9ジュゴンが7時間11分辺野古沖を回遊している環境省資料で共通の認識を確認しあいました。また、環境省資料を改ざんした沖縄防衛局の準備書や虚偽記載した事業者の見解（「ジュゴンの生息は辺野古沖では平成11年度まで」 沖縄県に6月15日提出）が沖縄県環境影響評価条例違反であり、修正勧告を出すことを沖縄県に求めました。

沖縄県はNO16-9ジュゴンの辺野古沖回遊の事実を準備書で一切触れていないことや、事業者の見解は問題があることを認めました。そして、SDCCの意見をふまえて、沖縄県として、また審査会事務局として次回審査会（7月14日）で、沖縄防衛局に上記2点をしっかりと確認するとの回答を引き出しました。このことを指摘した吉川さん（SDCCスタッフ）の意見書を次回審査会で審査委員に配布することで議論を進めることも確認しました。

同日、国会では参議院外交防衛委員会で山内徳信議員がこの問題について7月2日、7日に続いて3回目の質問を行いました（参議院国会中継録画で見ることができます）。7時間11分も辺野古沖を回遊したNO16-9ジュゴンを質問の前面に出すことで、準備書での環境省資料の改ざんと、事業者見解での虚偽記載を明らかにしました。そして、準備書や事業者の見解は刑法の文書偽造罪に触れると準備書の撤回を求めました。



山内徳信議員が国会で質問しました（参議院国会中継より）

これらの取り組みは、沖縄防衛局の準備書に不信感を持つ多くの沖縄県民の怒りを高めるとともに、沖縄県環境影響審査会での議論を活発にするに違いありません。10月上旬に予定されている沖縄県知事意見までに、国会質問と連携して県審査会への参加や地元でのキャンペーンなどで準備書の撤回を勝ち取りましょう。

SDCCから210通の意見書

アセス準備書の
出しなおしを！！

SDCCは普天間代替施設の環境アセスメント準備書に、210通の意見書を集約して沖縄防衛局に送付しました。今回の準備書は「基地建設ありき」のまったく非科学的なものです。意見書にはこれを強く批判し準備書出しなおしを求める意見が集まりました。

「なぜ辺野古なのでしょう？何のため誰のための基地建設なのでしょう？」「2010年名古屋での生物多様性国際会議で日本は責任を問われます」「この準備書には『実行可能な範囲でできる限り回避・低減が図られているものと評価した』という表現が多用されていますが、最大限の回避・低減をはかるといって“ベスト追求型”の現在のアセスメントの趣旨から外れています」「辺野古にジュゴンがいないとありましたが、それはキャンプシュワブの海兵隊の水陸両用の戦車を使って縦横無尽に演習してるからじゃないですか？」「オスプレイの導入や土砂の搬入先が不明です」「海草藻場の保全計画を示してください」など。

今回の準備書に全体では5317通の意見書が寄せられました。沖縄防衛局は沖縄県環境影響評価審査会の審査で、これら市民の意見に答える責任があります。 松島洋介

ジュゴン保護国会請願署名3万360筆を提出



昨年10月のIUCN第4回世界自然保護会議で決議された「2010年国連国際生物多様性年におけるジュゴン保護の推進」の履行を求める請願署名を、5月21日に衆参両院議長宛に提出しました。昨年11月のIUCN報告会で国会請願署名を提起し、全国に協力を呼びかける中、3万360筆の署名が集まりました。

署名提出行動には、紹介議員になっていただいた、山内徳信さん、赤嶺政賢さん、紙智子さん、辻元清美さん、川田龍平さんが駆けつけました。また照屋寛徳事務所、糸数慶子事務所から議員秘書の方が代理参加しました。

SDCCの会員である参議院議員の山内徳信さんは、「こんなきれいな辺野古をつぶすのか、と訴えてきた。もう沖縄に基地はいらない。政府は追い込まれている。」と力強い決意を表明しました。



沖縄からは、ジュゴン保護基金委員会の東恩納琢磨さんが上京し、「辺野古・大浦湾の自然のすばらしさを広げたい」と決意を語っていました。

この署名提出をふまえて、今後国会や県議会での質問などで日本政府に対してIUCN勧告の即時履行を求めていきましょう。 三村昭彦

ジュゴンを守るための"インターネット署名"にご協力を!

IUCNのジュゴン保護決議は、日本のジュゴンだけでなく、世界のジュゴン生息国にジュゴン保護を求めています。ジュゴン保護は世界の流れであり、世界中の人と一緒にジュゴンを守っていききたい、そんな思いからインターネットで出来る署名に取り組んでいます。

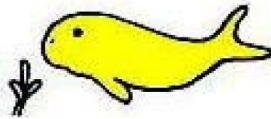
6月28日現在、325件 55の国と地域の方からの署名が集まっています。ほとんどはIUCNに加盟している世界の団体ひとつひとつに、協力依頼のメールをして集まった署名です。メールを読んだ海外の環境団体が、ホームページにこの署名の案内を載せてくれたり、「SDCCの活動をサポートします。一緒にジュゴン保護に取り組みましょう」という返事が来たり。ジュゴン保護の輪がどんどん世界に広がっていきます。



提出先は麻生首相とオバマ大統領。英文ですがSDCCホームページに日本語での解説があります。また、同内容の署名用紙(日本語・英語)も準備して、街頭やイベントでの署名集めもはじめました。こちら↓をご覧ください。ぜひ署名にご協力ください。

<http://www.sdcc.jp/iucn/internet-petition.html>

沖縄防衛局交渉



辺野古にも行ったよ！
無視しないでね！

「H16年度まで辺野古はジュゴンの生息域です」(沖縄防衛局)

7月3日沖縄防衛局交渉をしました。

私たちの追及に、交渉責任者が私見ですが「平成16年度までは辺野古沖はジュゴンの生息地である」と明言しました。これは、6月15日に沖縄防衛局が沖縄県に提出した事業者見解「ジュゴンの生息（発見ではなく生息…引用者）は辺野古沖では平成11年度まで…確認されましたが、その後は確認されていません」（p78 No9）を否定するものです。

なぜ、私見であるにせよ沖縄防衛局は平成16年度までは生息地であると認めたのでしょうか。

2005年（平成17年）3月7日に発見されたNO16-9 ジュゴンが7時間11分、「辺野古沖をゆっくり北上し、長島・平島あたりでUターンして南下」と、環境省が「ジュゴンと海草の広域的調査」（平成13年～17年度結果概要・表2 平成18年12月26日）で報告している事実を沖縄防衛局が否定することができなかったからです。

では、なぜ、沖縄防衛局は準備書の第6章から NO16-9 を消したのでしょうか。

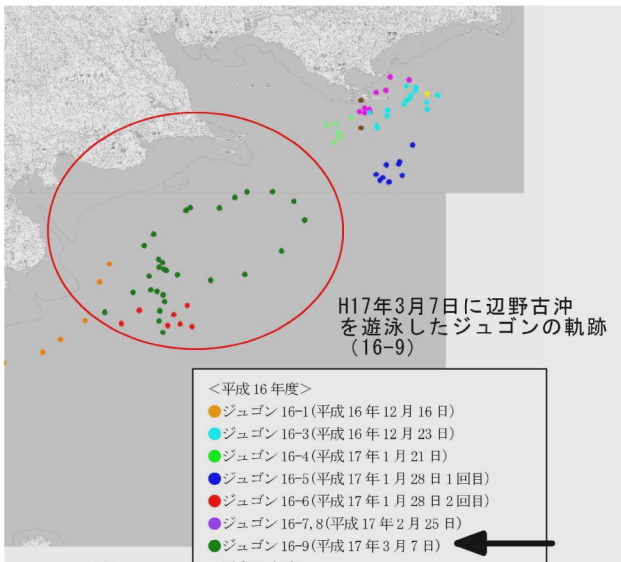
第6章が「総合評価」で調査、予測及び評価の結果を取りまとめる結論部分だからです。

辺野古沖にジュゴンが平成12年度以降は生息を確認されていないから、辺野古沿岸の海草藻場は破壊しても仕方がないと結論づけたかったからです。

基地建設を進めるために、1) NO16-9 ジュゴンを準備書第6章から消し去り、2) 宜野座沖で発見されたジュゴンの頭数をごまかすなど、環境省の資料の改ざんした沖縄防衛局を許すことはできません。

7月9日沖縄県交渉や県環境影響審査会への働きかけ、国会質問などで準備書の撤回を求めています。

注) 沖縄タイムス7月5日、琉球新報7月4日、琉球朝日放送7月3日で報道されました。



「ジュゴンと藻場の広域的調査 H13～17 結果概要」(環境省) に加筆

ジュゴンの里 ツアー

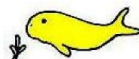
議員激励行動&おばあの朝市訪問期

★じゅごんの里ツアーに合わせて前日に沖縄入りし、議員激励行動を行いました。社民・護憲ネットの県議で、野党連絡会座長の新里米吉氏を訪問し、今回のアセス準備書の問題点を説明、議会での質問・追及をお願いしました。何か印象に残るパフォーマンスをと七夕にちなみジュゴンメッセージカードで飾った笹をプレゼント！街頭やイベントで集めた思いが込められたカードです。快く受け取って部屋に飾り、「議会で質問するからね」と力強く応えて下さいました。他の野党会派へも「ジュゴン保護をよろしく！」とジュゴンマスコットをプレゼントして挨拶回りをしました。

★「基地に頼らない暮らしを」と朝市を続けるおばあのことを知り、話を聴きたいとずっと思っていました。それは私に大きな力を与えてくれると感じていたから。ツアー3日目おばあ朝市訪問は何にも変えがたい貴重な体験となりました。お土産にと持っていった折り紙ジュゴンやメッセージカードをお店に飾ってくれ、マスコットをイヤリングのように耳に飾って大喜びしてくれたおばあ。

今は二人になってしまったけど、「基地は絶対にだめ、死ぬまで朝市続けるさ」と80歳と89歳のおばあは、揺るぎない思いを持ち続け優しく強い。その深さにあこがれる。「この海は豊かなんだよ」「子や孫にあんな苦しい思いをさせたくない」と力強く語るおばあ。私たちが訪問したことや全国で活動している人たちに「感謝している」と何度も語るおばあ。平和を願う気持ちは同じだと思いたい、私は私なりにできることを続けていこう。そして、またおばあに会いに行きたいな。

池側恵美子



「この海は豊かなんだよ」(おばあ)

報告

2009年ジュゴンの里ツアー



今年は関東、関西、沖縄からスタッフ含めて総勢24名の参加でした。初日(3日)は美ら海水族館を見学。マナティ君にご挨拶!

2日目(4日)はじゅごんの里の東恩納琢磨さんの船で汀間漁港を出発。辺野古テント村を訪問しへいわ市民連絡会の当山さんのお話を聞き、キャンプシュワブとの境界である有刺鉄線リボンをくりつけました。その後は海に出て埋め立てられる地点を確認。残念ながら波が荒くなり貴重なアオサゴの群生を見ることができなかったことです。また来年いらっしやいという意味でしょうか?! 船から上がって次はジュゴンの見える丘を見学。ジュゴンに会えないかと毎回ドキドキ!(会えませんでした) 夕方、毎週土曜日はキャンプシュワブ前でサイレントキャンドル行動の日なので参加させてもらいました。



大浦湾へ出発



サイレントキャンドル行動

継続してやりつづけている渡具知さん、どれだけ大変なことか・・・頭が下がります。

3日目(5日)二つのコースに分かれて名護を散策。ひとつは朝市でおばあちと交流。いろんなお話が聞けました。その後、嘉陽などを散策。一方は、川歩きをし真喜屋の滝を見学。言葉では簡単ですが大きな岩をいくつも越えて上流まで歩くので最後はみんな声もでないくらいでした。苦勞の甲斐あって滝を見たときは爽やかな風が吹いてました。たった3日間でしたが感動を胸におのおの家路に着いたのはいうまでもありません。参加していただけた皆様、お疲れ様でした!(上田 千鶴)

「沖縄のことを考え続けよう」

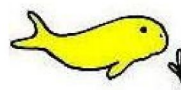
倉田あかり

盛りだくさんのじゅごんの里ツアー、このツアーではこれから私に何ができるのか、という自分の問いにヒントをくれるような出会いばかりでした。遠浅で澄んだ海。海に立ってみて、ここから工事ははじまるんだよ、と教えられた時には衝撃でした。サイレントキャンドル行動をしている方と出会ったり、自分たちの生産したものを売るおばあに話を聞いたり・・・みなさん自分ができることを真摯に続けていました。SDCCの方たちのポジティブに現実と向き合う姿勢にも影響を受けました。いろんな方と出会い、おいしいものを食べ、楽しいだけじゃなく心に何か落としてくれるような素敵なツアーでした。ありがとうございました。沖縄のこと、これからも考え続けようと思います。

「次回も絶対参加したい」

鈴木陽子

今回このじゅごんの里ツアーに参加することが出来てほんと〜に良かったです! それまで辺野古には行ったことがありませんでしたが、実際に辺野古の自然に触れることで、この自然を守らなくてはならないとより強く思うようになりました。これからはもっと頑張って活動に参加出来る気がします。ツアーでは海だけでなく、森で沢登りを体験するなど、沖縄の自然を満喫することができました。ですが、よりたくさん自然を体験したいので次回のツアーも絶対参加したいと思います! また、次回は私のようにジュゴンの棲む海を実際に見たことがない多くの方々に、あの素晴らしい自然を体験してもらいたいです。

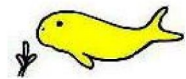
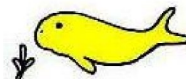


参加者から

「今から来年が待ち遠しい」

仲村幸子(沖縄・初参加)

去年参加した関東メンバーが「綺麗だった」「最高」を連発している気持ちが分かったツアーでした。他のツアーでは味わえない、沖縄の今と、自然を体験できたからです。日常では接点のない出身県、年齢もさまざまな人達とも「ジュゴン好き」が縁で、交流できることも貴重。ツアーの内容は、米軍基地埋め立て予定地現場をボートに乗り実際に見ること。ジュゴンが食料としている藻場をシュノーケルでまったり観察。無人島では、膝までの水深でも、鮮やかなブルーの稚魚を見ることができました。水族館で大きな魚を見るのも感動なのですが、やはり自分の足元で、肉眼で見ることで海への愛着がより生まれました。滝を見に山登りでは、手足すべて使って久々に必死の山登りとなりました。上流へ行くにつれて、岩が大きくなり、そこには、山でしか見られない昆虫も出会うことができました。土と木々の香りを吸って森林浴をしながら、自然の広大だなと実感しました。

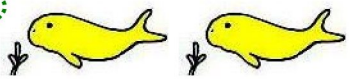




ピースキャンドルに取り組む
～渡具知武清さんに聞く～

7月4日(土) 午後6時半から30分、キャンプシュワブ前で渡具知武清さん一家とともに取り組みました。2004年1月3日、ボーリング調査の強行を阻止するために始めてから4年半。ローソクを立てたペットボトルをもって、出入りする米軍人に笑顔で手を振る行動です。
キャンドルの後、渡具知さん(写真右端)に色々お話を伺いましたのでご報告します。

..... 渡具知さん宅にピースハンカチを送りませんか。不要なハンカチにメッセージを書いて事務所に送ってください。宜しくお願いします。



インタビュー内容

(注：二見以北十区の会)

- ◇ 「なぜ始めたのですか」
- 基地建設が子供たちを危険なめに合わせることが分かった。そのころ十区の会(注)ができた。私は自分のために、子供のためにしている。三人の子供(小六年と小二年の二人)には自分の子供に父の思いを伝えてほしい。
- ◇ 「悲しかったことは」
- ピースキャンドルの時に、土建業の社長から「覚えておけよ」と恫喝された。「皆のために闘う」と言っていた人が二年、三年経つと辞めていったことも悲しい。
- ◇ 「うれしかったこと」
- 雨の中で頑張っていると、観光バスの運転手がお客さんを乗せているのに、激励のクラクションを鳴らしてくれた。この頃、米軍人も手を振ってくれる。何度も基地従業員から「応援していますよ」と差し入れをしてくれる。
- ◇ 「支援の人に」
- 地元の人には支援の気持ちがあるが、参加が弱い。一緒に立ってほしいと思っている。外への動き掛けが弱くなってきているから、支援が少なくなっている。ピース・ツリー(二見と辺野古の三叉路など3か所)に括りつけるハンカチを送ってほしい。

アイザック君はアメリカのニューヨーク州に住む小学4年生。彼が通う教会の学校で環境問題に取り組むことになりました。いろいろある環境問題の中でアイザック君が興味をもったのは、沖縄のジュゴンのこと。

去る5月17日、彼は手作りのポスターを使って、沖縄のジュゴンの保護、基地建設反対を訴える発表をしました。わたしたちもアイザック君の発表を応援したいなあ、とジュゴンのマスコットや折り紙を送りましたが、とっても喜んでもらえました。

「ジュゴンを守って下さい」
米小学生の取り組み



発表の後、アイザック君は日本政府や米国政府に「ジュゴンを守ってください。ジュゴンの棲む海に米軍基地を作らないで」という手紙を送りました。教会で話を聞いた子どもたちや保護者の方たちの署名付きです。彼とお母さんがクッキーを焼いて、売ったお金を切手代にあてたそうです。「これからもジュゴンを助ける活動をつづけるよ!」とアイザック君。頼もしいジュゴンサポーターの誕生です。 山根富貴子

報告

「沖縄・生物多様性市民ネットワーク」結成について

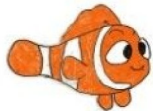


2010年10月、生物多様性条約の第10回締約国会議（COP10）ならびにカルタヘナ議定書第5回締約国会議（MOP5）が、日本を議長国として名古屋で開かれます。これを機会に、沖縄の生物多様性を保全するための大きな流れを作りだそうと、「沖縄・生物多様性市民ネットワーク」（略称：沖縄BD市民ネット）が結成されることになりました。来る7月25日には、結成大会が沖縄市農民研修センターで行われます。

亜熱帯に位置し、豊かで独特の生物多様性をもつ沖縄。その自然環境を基盤に育まれ伝承されてきた、独自の伝統・文化や暮らし。そして「沖縄戦」「米軍統治」「日本復帰」「乱開発」という歴史から学んだ「命どう宝」のメッセージ。沖縄BD市民ネットは、「環境」運動に関わる／関心のある団体・市民だけではなく、「平和」「人権」運動に関わる／関心のある団体・市民も参加する「沖縄らしい」生物多様性保全の動きを目指しています。

沖縄BD市民ネットの結成にむけて、SDCCの海勢頭豊共同代表も積極的に動いています。私も事務局として取り組んでいます。生物多様性条約について学びながら、多くの団体や市民がこれまで蓄積してきた取り組みを、生物多様性の観点を通して、国内外へ発信し、共有するための活動を展開していきますので、SDCCのメンバーの応援をよろしくお願いします。

吉川秀樹



大浦湾のユビエダハマサンゴ 群落

新企画

写真スライドと音楽のコラボライブ



6月21日は、3月に写真展を行ったカフェ・マガタマで民謡バンドとのコラボ企画「遊朴民とジュゴンの海中さんぽ」を催しました。SDCCの蓄積してきたヤンバルの自然や辺野古・大浦湾の美しく豊かな海中の映像をバックに、沖縄民謡などの音楽を楽しんで戴くという企画です。映像は、これまで写真展等で使用してきたSDCCオリジナルの写真を実用機能を用いたスライドショーでスクリーンへ。

ファイルを準備するのは予想をはるかに超える手間のかかる作業でしたが、白い砂浜や青い海、色とりどりの海中の生き物たちの様々な写真が、静止画ながらも時間とともにゆっくり動いたり広がったり

と新たなアピール方法として非常に魅力的で、今後も色々活用出来る感触を得ました。リーダーが辺野古の座り込みにも参加したことがあるという遊朴民さんも、元気一杯のパフォーマンスで盛り上がり、その他の多くのつながりも生まれて期待が膨らむ一日でした。

海勢頭 聖

* イベントスケジュール *

- *7月26日(日) ジュゴンの里ツアー報告会(大阪)
時間:14:00~16:00 場所:コラボ玉造(JR玉造駅下車すぐ)
- *8月1日(土)~2日(日)
平和と民主主義をめざす全国交歓会
場所:鶴見会館(横浜 JR京浜東北線 鶴見駅下車)
8/2 9:00~12:00まで、分科会「基地ではなくジュゴン保護
区を 2010年国際生物多様性年へ」を行います。
くわしくは、 <http://www.zenko-peace.com/>

海勢頭豊*サンの島コンサートの案内

2010年国連国際生物多様性年にむけて、今年10月にプレ国際ジュゴン年(略称)企画として名古屋でコンサートを行います。

2010年国連国際生物多様性年に向けた沖縄のメッセージ ~ 海勢頭豊 サンの島コンサート

日時 10月16日(金) 午後6時開場
午後6時30分開演、終演午後9時
会場 名古屋市西文化小劇場(350席)
名古屋市西区花の木二丁目18番23号
TEL:052-523-0080 FAX:052-523-0081
チケット 3000円(前売り2500円)
ボーカル・ギター・海勢頭豊、ボーカル・島田路沙、
バイオリン・海勢頭愛

☆☆ 名古屋コンサートのスタッフ募集中 ☆☆

10月16日(金) 午後6時30分開演の名古屋コンサートのチラシもできました。同封しましたのでご覧ください。ボランティア・スタッフを募集します。チケット販売や宣伝に協力していただける方、当日運営を手伝っていただける方などを募集しています。メールまたはFAXに「名古屋コンサートスタッフ希望」と書いて、「お名前、住所、電話番号」をお知らせ下さい。

連絡先: E-MAIL info@sdcc.jp FAX 06-6353-0514

「サンの島」 発売中★

*新しいアルバム「サンの島」が発売されました。定価は2500円。申し込みは2500円+郵送料120円でジュゴン保護キャンペーンセンターまで。

ジュゴンちゃんぷるニュース VOL.45 2009年7月14日発行
ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)
Tel/Fax 03-5228-1377 〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-2-1
第1千代田ビル301 なかま共同事務所内
○ <http://www.sdcc.jp/> ○ info@sdcc.jp
(関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号野口ビル302
TEL/FAX 06-6353-0514

夏季カンパのお願い

IUCN 決議の履行を求める国会請願署名約3万筆を、衆議院12人、参議院14人の国会議員に提出しました。ご協力ありがとうございました。

沖縄防衛局が環境省の資料を改ざんして準備書を作成していることが分かりました。辺野古にジュゴンはいないから辺野古沿岸の海草藻場に基地を建設しても支障がないと主張するためです。私たちは6月29日に沖縄防衛局長と環境大臣に公開質問状(別紙同封)を出しました。7月3日には沖縄防衛局交渉で、この点を厳しく追及しました。今後、国会質問や沖縄県環境影響審査会論議で「信用できない環境影響調査のやり直し」を求めていきたいと思ひます。

活動の広がりでご会財政が逼迫しています。カンパや会員紹介など、ご協力をよろしくお願いします。

郵便振替:

加入者名 ジュゴン保護キャンペーンセンター
口座番号 00140-9-660199



Editor's Note

ジュゴンの里ツアー3日目の7月5日。浦島悦子さんの案内で真喜屋の滝に行きました。険しい沢のぼりのあととどろついた「真喜屋第2の滝」は森と清流の精気を充満させていました。次はもっとゆっくりいきたいなあ・・・ (M)

